

平成20年度 施策マネジメントシート【19年度評価】

作成:20年5月

施策コード 82	施策名 三遠南信・中京圏の連携推進	政策名 交流と連携が活力を生むまちづくり
施策区分 重点施策	主管部等名 企画部	施策担当課 三遠南信交流・リニア推進対策室
	課長名 小林正春	内線 2220
施策関係課	産業振興支援課、公民館、文化会館、工業課、観光課、秘書広報文書課、防災交通課、議会事務局、学校教育課、生涯学習・スポーツ課	

1. 施策の目的と成果指標

二段表記の下段数値は旧2村分

施策の目的	施策の対象	対象指標	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	23年度見込
	市民、行政	住民人口	人	106,835 2,963	108,624	107,844	107,295	107,000
施策の意図	成果指標		単位	16年度	17年度	18年度	19年度	23年度目標
	三遠南信、中京圏域と共通の課題を認識する協力し補完しあう	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏)	%	-	8.5	-	9.2	10
		三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合	%	77.6	74.2	-	73.1	80
成果指標設定の考え方	三遠南信、中京圏域と課題を認識し協力補完しあうためには、何より市民の交流が大切なため。							
成果指標の把握方法(算定式など)	市民意識調査 問7 - 5 『三遠地域・中京圏の住民やグループとの交流活動をどの程度行っていますか』 * 『ほとんど行っていない』と『不明』以外を選択した市民の割合の合計							
	市民意識調査 問30 『あなたは、飯田市にとって三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思いますか』 * 『そう思う』と『どちらかと言えばそう思う』を選択した市民の割合の合計							
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	地域や地域経済の自立の観点から、歴史的・地理的・経済的に繋がりをもつ三遠南信・中京圏との連携をより深めていく(強めていく)ことが重要であり、行政や市民の間での交流を積極的に推進していくための目標値として設定した。							

2. 施策を担う主体

主体	施策の成果向上に向けた主体別の役割分担	ムトス指標と把握方法(把握方法と単位をカッコ書きする)	19年度実績	23年度目標
行政 市(国・県)	地域経営戦略として積極的に交流・連携する。歴史・文化的に繋がり強い三遠南信・中京圏との交流・連携を市民に啓発する。	・三遠南信・中京圏で交流している自治体数 ・三遠南信・中京圏の情報発信数(三遠南信メールマガジン発信回数)	32 月2回 (21)	116 月2回 (24)
市民等 市民(個人・事業者・各種団体)	積極的に交流・連携する意識を持つ。	・三遠南信・中京圏と連携している市民の割合と、団体の数	現段階は、行政の役割のみ数値設定	

3. 施策の成果達成度の分析

(1) 施策の成果達成度とその考察			
平成19年度の実績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 18年度と比べて成果が向上した	根拠(理由)	市民意識調査結果はあまり変化が見られていないが、サミットの住民セッション参加実態などから、向上と判断
	<input type="checkbox"/> 18年度と比べて成果は変わらなかった		
	<input type="checkbox"/> 18年度と比べて成果は低下した		
平成23年度の目標達成見込み(H19実績からのH23目標達成見込み評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状(20年度)の取り組みの延長で目標は達成できる	根拠(理由)	三遠南信地域連携ビジョンの合意形成と、20年度に取り組み予定の推進体制整備・情報発信活動などによって、23年度目標の達成可能と判断
	<input type="checkbox"/> 現状(20年度)の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能		
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい		
成果指標の達成度の考察	17年度比較から微増であり、23年度目標達成に向かっていく。また、重要と思う人の割合についても、現状維持の状況ではあるが、三遠南信地域連携ビジョンの合意形成及び推進体制の確立などが方向付けされており、20年度以降の事業執行によって目標達成の見込みである。		
(2) 施策の成果達成度に対する平成19年度事務事業の総括			
施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	三遠南信地域連携ビジョン策定事業 三遠南信及び中京圏との交流推進事業	施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
新規事業	事務事業一覧表を参照のこと。事業名欄に[新規]と記載がある事務事業が該当		
事務事業全体の振り返り(総括)	三遠南信地域連携ビジョン策定事業は、サミットにおいて三圏域の合意形成を経て、体制整備を含め推進の段階となっており、さらに積極的な展開が必要となる。関連して、三遠南信・中京圏の交流に関しては、サミット参加など効果的な取り組みであった。 中学生・教員の三遠南信交流は継続事業として行政主導ではあるが、それぞれ参加しての取り組みが行われ、今後、三遠南信地域連携ビジョン推進の中で新たな展開を見極めることも必要。		

**(3) 主体別の役割分担の発揮状況 (19年度の振り返り)**

三遠南信地域連携ビジョン策定に当たっては、南信州圏域の中心となって市及び経済界が主要な役割を果たし、議会としても随時意見や提案がなされた。  
サミットの取り組みでは、行政・経済界・住民それぞれが主体となって参画し、議会も大半の議員参加があった。  
伊勢市小中学生交流については、行政指導で、婦人会交流は、団体主体事業に行政が支援して、それぞれ実施された。

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

<p>施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?</p>	<p>近年は、水系(流域)・街道など、水や緑などの環境問題を中心に連携が深まる傾向にある。 市町村合併が進み、都市間の連携が更に強まることが予想される。 道州制導入の動きに伴い、三遠南信・中京圏との交流の重要性が益々高まっている。 三遠南信自動車道の建設促進に伴い、市民の交流がより活発になる可能性が高い。 浜松市・豊橋市では施策に「三遠南信交流」がある。南信州との交流を重要視している。 三遠南信地域連携ビジョンが策定され、三圏域の合意形成に基づき、推進体制の整備と今後の取り組み強化が不可欠となっている。</p>
<p>この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p>	<p>三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと感じている市民の割合は約7割と高いが、実際に交流に参加している市民の割合は少ない。(市民の意見) 連携や交流を重要と考える意識は高まっており、行動に移していくことが必要である。 国では道州制案が議論されており、議会からはもっと積極的に連携や交流を行うべきとの意見が出されている。</p>

**5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)**

事業者や各種団体がやっている連携・交流の実態把握。  
交流に関する情報の提供及びきっかけづくりの提供。  
個人・団体等の新たな交流を促す取り組み。  
必要とする交流の把握と支援策の検討。  
三遠南信連携ビジョン策定を受け、推進体制への参画及び重点プロジェクト対応策の明確化が不可欠である。後の取り組み・組織など対応策の整備。  
道州制についての調査研究を進める必要がある。  
リニア関連で、中京圏との連携も視野に入れた方向性を組み立てる必要がある。

**6. 施策の事業(一般会計及び一部特別会計を含む)**

	19年度決算見込み	20年度決算	21年度決算	22年度決算	23年度決算
施策事業費(人件費を除く)(千円)	2,165				
関連する事務事業の数(事業)	6				

**7. 21年度の施策展開の方向(施策の成果目標達成に向けて21年度から何に取り組んでいくか等)**

三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)への参画。  
三遠南信地域連携ビジョンに盛り込まれた重点プロジェクトをはじめとする各種連携事業に積極的に取り組む。

**8. 指摘事項**

<p><b>政策評価会議</b></p>	
----------------------	--